

ふれあい通信

いずみ

平成19年1月12日発行

4号

発行
社会福祉法人 いずみ会
秋田市泉菅野二丁目17番11号
TEL.018-896-5880



秋田市社会福祉協議会
会長 鈴木 彪四郎

いのちを育む

昨今の子どもに関する痛ましい事件に接するたびに「人間は生きることが、全部である」という坂口安吾の言葉が心に響いてきます。「いのち」の尊さは言葉を何度重ねても、どんなに声高く叫んでも尽きることのないものです。

福祉に携わっている一人として今だからこそ、それぞれの立場からのちを育み、地域住民の生活を支え、生きる喜びが生まれるよう努力を続けたいものです。

いずみ会様は、大きな三つの理念のもと、幼児・障害者・高齢者を対象とした先駆者的な福祉複合施設を運営され、地域に根ざした施設として、こころの通い合う福祉活動を展開されておられますことに、心からの敬意と賛辞をお送りいたします。

市民共生はみんなの願いです。今後とも関係諸団体と互いに手を携えて「いのち」を育む一翼を担っていただけたらと切望しております。

平成19年4月から
「地域包括支援センター」が
リンデンバウムいづみに設置予定

いづみ会では、平成19年4月から「地域包括支援センター」を設置運営させていただくことになっております。このセンター

は、平成18年の介護保険法の改正に伴い新しく創設された機関（秋田市の委託事業）で、現在、秋田市内10ヶ所（内1ヶ所は基幹型）で、開設準備をすすめているところですので。センターは、高齢者の心身の健康維持や生活の安定、保健・福祉・医療の向上、権利擁護、高齢者虐待防止など様々な課題解決にむけた取り組みを実践していくことを主な業務としています。職員は専門職として、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの3職種を配置し、連携して業務に取り組みます。

いづみ会は平成12年11月に泉地区に複合老人福祉施設を開設して以来、一貫して「地域福祉への貢献」を運営理念



に掲げ、地域住民の皆様との協力をいただき共に生きる福祉社会の構築を目指して事業運営をして参りました。

新年度からは更にステップアップを図り、秋田市中央圏域の皆様の地域生活を支える安心の中核機関となれるように尚一層の努力をして参ります。その為には地域住民の皆様を始め、地域の福祉、医療、介護や行政機関の皆様との安心ネットワークの形成が必要不可欠であると考えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

こども園
植えて、育てて
食べました！



「おはよう」と言うと大きくなるんだよ」と、畑のさつまいもを見るたびに「おはよう」と声をかけ、大きくなるのを楽しみにしていた子どもたち。10月13日、待ちに待った収穫の日を迎えました。毎日畑のお世話をしてくれた3階生活支援ハウスの井上さんや2階通所センターのお兄さん・お姉さんと一緒に、さつまいも掘

りに挑戦！今年は掘っても、掘っても出てくるほどの豊作で、あちこちから「おっきい」「井上さん、ここも掘って」と歓声があがりました。「大きくてかぼちゃみたいだね」と名付けたのが「かぼちゃいも」です。畑の横に山積みになるほどのおいもを収穫し、「楽しかったね」と、みんなで握手をして帰りました。沢山とれたさつまいもは、給食で食べたり、クッキング保育で作った豚汁の中に入れたり。残り全部、窯でおいしいあつあつのや



おおいさつまいもがとれたぞ～

きいもにして食べました。井上さんや通所センターのお兄さん・お姉さんの協力を頂き一緒に苗を植えて、育てて、収穫したさつまいもの味は格別でした。

「新事業体系」に移行して



障害者自立支援法の具体的施設体系として、10月から知的障害者デイサービスセンターが名称を「障害福祉サービスセンター」へと変更し、多機能型事業として生活介護事業と自立生活訓練事業を行っています。健康面の支援を充実させるために看護職員を配置し、サービス管理責任者のもと、ひとりひとりに合った個別支援計画を立て、より良いサービスの提供を行うよう努力しています。利用者は、一般就業を目指す人から毎日楽しく充実した生活を目指す人など、それぞれの自立に向け日々励んでいます。利用者にとびっきりの笑顔に元気づけられています。

クッキー待夢

たいむ



「修之、佳奈さん親子と共に4人でスタートしました。ウエレ

特集

笑顔は何ものにも勝るコミュニケーション

秋田大学教育文化学部2年次 渡邊 久美子



私は今回の実習で会話だけがコミュニケーションなのではなく、笑顔や握手を通して喜んでもらえることを学びました。また「ありがとう」という言葉

のすばらしさも利用者の皆様から教えて頂きました。教育と介護は、一見異なる領域のように受けとめていましたが、「人とふれあう・夢(生きがい)を与える」という大きな共通の目標があると強く思いました。老人デイでの5日間は、お互いに生きていく上で大事なことを肌で実感できました。この貴重な体験を大学生活に活かしてまいります。本当にありがとうございました。

施設交流を終えて

聖園ベビー保育園 樋目 恵子

私は10月28日、ウエルビューいずみこども園で施設交流をさせて頂きました。1階が保育園と交流プラザ、2階が老人デイサービスと授産施設、3階が自炊を基本とした高齢者の生活支援ハウスという複合施設となっております。幼いときから障害のある方や老人と接することで、自然に思いやりの心が育まれる事や他の保育園では得られない経験ができる特色もついています。保育園に入ると自然の光が射し込むホールがあり、ここを中心に放射状に各保育室が位置しています。クラス単位や異年齢児の組み合わせで使用したり、2〜5歳児がみんなで昼食をとれる場にもなっています。

私は0歳児で研修しました。8名の園児に保育士と看護師が複数であたつております。離乳食の段階が細分化され、保育室に隣接する調乳室が1日器具でコンパクトに管理されています。保育園のスタッフとの話し合いで、お互いの情報交換や2歳児を中心に一緒に遊べる機会を計画したいなどの案がでました。昨年私が担任し、3歳になつてこの園に入った子どもとも一緒に過ごす事ができ、うれしい思い出となりました。



ウエルビューいずみ

交流プラザ

利用について

地域町内会等の活動に有効活用してください。

● 終了時間
午後10時まで

若葉町 フリーマーケット



ウエルビューいずみの向かいにある若葉町内の仲間、フリーマーケットをやらせて頂くようになって3年が過ぎました。それまではガレージでやっていました。雨、風の心配なくやれる事は本当にありがたいことです。1階のフロアーを使わせて頂き、沢山のお客様で賑わい、地域の親睦になつていきます。これからも続けていきたいと思っております。

若葉町フリーマーケット
実行委員の皆様▼



社会福祉法人いずみ会「理念」

- 1 私たちは利用者や家族の気持ちを尊重し、ニーズに応えられる施設をめざします
- 2 私たちは豊かな知識を身につけ、質の高いサービスを提供できる施設をめざします
- 3 私たちは地域とともに力を合わせ、地域福祉に貢献できる施設をめざします



おいしい手づくりクッキーいかがですか？

ピコーいずみで11月より5種類のクッキー1袋210円(各70g入)で販売を始めました。ご利用をお待ちしています。(母)

利用者、小松修之さん宅(泉一の坪)の工房をおかあさんから紹介して頂きました。



いきいきインタビュー

「独楽庵切抜帖」紹介
ケアハウススプリングヒル

富野 己代治さん 大正4年生まれ(91才)

社会のニーズに興味を持ち、いきいきと切抜帖作りを楽しんでいる富野さんにふれあい通信スタッフがインタビューしました

Q 富野さんは切抜帖をいつ頃から、何をきっかけに始めたのですか？

A 10年前から新聞の切抜きが楽しくなり、今は月に1冊作成し、これまでに120冊作成しました。

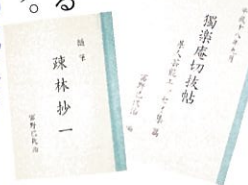
Q 切抜帖はどこでみる事が出来ますか？

A 県立図書館、明德図書館、新屋図書館、土崎図書館におかせてもらっています。

新聞切抜をしている富野さん



Q 特にどんな方にみて欲しいですか？



A 秋田魁新聞から切抜いているので秋田の文化を愛する人に見て欲しいです。

Q 今後の抱負は？

A 作成しているときに気持ちに張り合いとやりがいを感じます。楽しく作成しているのでやめようと思っただ事はないし、これからもずっと続けていきたいです。

♪ 音楽ボランティアでふれあいを…
第二の人生は持ちつ持たれつ

大橋 敏孝さん

第二の人生を趣味の楽器演奏で始めた音楽ボランティア。市内各施設で活動させていただいています。ウエルビユーいづみには開設後まもなくお伺いし、利用者の皆さんが歌う曲の伴奏(キーボード演奏)をしています。皆さんが明るく元気に歌われるのが何より楽しみですし、私もたくさんさんのパワーをいただいで感謝



しています。これからも出会い、ふれあいを求めて、活動を続けてまいりますのでよろしくお願ひします。

文流プラザに羊燈の
お囃子が鳴り響く

囃子の音色が響いています。太鼓の音が力強く鳴り響いています。差し手がリンデンバウムの広場で練習しています。地域の方や職員の協力です。少しづつ上達してきました。水曜日の晩はにぎやかです。太鼓に、囃子に、差し手の皆さんが交流プラザに集まり練習します。こども園の園児も目を輝かせて見学しています。練習



小さな手で太鼓を叩いて喜んでくれます。大若・幼若が夜空に立ち上がることを思うとわくわくしてきます。練習しているところを見ていただき、声をかけてくだされば励みになります。

ご報告

昨年末当施設の入居者にノロウイルスの感染者を出し、皆様方にご心配、ご不便をおかけいたしました。心よりお詫び申し上げます。またこの間、多くの方々から激励の言葉をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。職員一同、皆様方のために一層の努力をしてみたいと思いますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

特別養護老人ホーム
リンデンバウムいづみ

施設長 鎌田 真里子

編集後記

昨年の雪の多さには驚いたというより時には恐怖さえ感じました。除雪が思うようにできない高齢者世帯では大変だったと思います。そこでウエルビユーいづみの除雪隊の活躍が前回のふれあい通信に載っていました。自分の事しか考えていない様な悲しい事件が多い中「人のために何かをする」という事はとても素晴らしい事だと思えました。今年の雪はどうなるのかちょっと心配ですね。

武藤 一晴